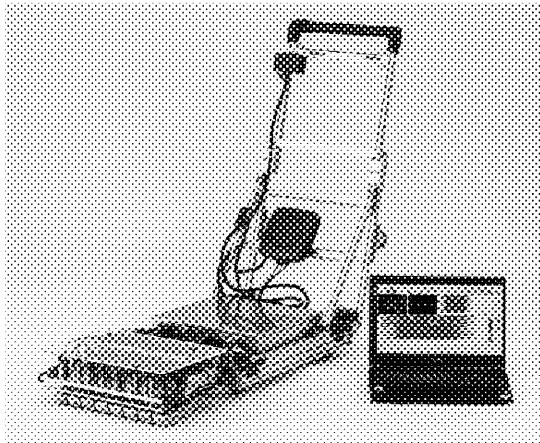


無線で非破壊検査

ウイズソルが小型装置

【広島】ウイズソル（広島市西区、外輪純久社長）は、原油タンクなどの底面非破壊検査で、無線方式によるワイヤレス型の超音波連続板厚測定装置を開発した。ピーティングオイル下側など人が入りづらい環境で、効率的な非破壊検査が可能になる。1台目を月内に自社の非破壊検査事業に導入し、順次増やしていく。

開発したワイヤレス（区）から性能評価認定型の測定装置は「UDを2月に取得した。WT-48W」。危険物保ワイヤレス型でのタンク安技術協会（東京都港）底面の板厚測定装置の



基板の小型化や別の検査装置の技術応用で小型化を実現した

実用化は「国内外で初」（同社）という。無線式にするとう通信機能の追加などで走行台車が大きくなるのが

課題だったが、基板の小型化や別の検査装置の技術応用により小型化を実現した。測定幅は360ミリで、測定

機は重量は38キロ、バッテリーで4〜5時間連続測定できる。原油などを貯蔵するタンクは消防法により、5年に1度の検査が義務付けられているという。タンクの底面は経年とともにサビなどによる腐食が発生するためだ。非破壊検査は測定装置を移動しながら超音波で鉄板の厚さを測定する。ただ、有線式は構造物がある場合など計測作業が困難な環境にあった。ウイズソルは国内各地に事業所を置き、製油所や化学プラントなどの非破壊検査を手がけている。検査装置やソフトウェアの開発部門を持ち、自社で技術開発できるのが強みだ。2024年3月期の売上高は75億円を見込む。